

新幹線協議会「第5回定期委員会」発言等に基づく申し入れ

JR東労組新幹線協議会は、9月2日に第5回定期委員会を開催し、向こう一年間の方針を満場一致で確認しました。委員会では安全とサービスを大前提に様々な施策に向き合いながら日々奮闘している事が報告されました。その中では様々な課題や声が出積しています。その課題を労使共通の認識として議論し、「安全・健康・ゆとり」ある職場をつくり出すことが必要です。よって以下7項目を新幹線統括本部へ申し入れていきます。

1. 2023年1月31日に発生した3025B列車、スローフが撤去されないまま起動開始した事象について、引き続き事象の共有を行うとともに、原因と対策を乗務員に周知すること。

1. 2023年6月2日に発生した、大雨による長野新幹線車両センター車両疎開に対する成果と課題を明らかにするとともに、車両疎開に対する対応を明確にすること。

2. 女性社員が安心して働けるよう、女性用設備の整備と改善を行うこと。

- ① 仙台新幹線運輸区4階休養室はこまめな温度調整ができず、また不具合も発生している部屋もあることから、各部屋で温度調整できる様に改善すること。
- ② 仙台新幹線運輸区4階休養室の浴室を現行から、個室のシャワー室にすること。
- ③ 那須塩原駅休養室シャワールーム脱衣所をカーテンで仕切りを設置すること。
- ④ 盛岡新幹線車両センター青森派出所に女性用ロッカー室を設置すること。
- ⑤ 休養室の寝具類が汚れている場合があるため、適宜交換またはクリーニングを行うこと。

3. 職場の声を把握し、駅詰所の新設・整備等の環境整備を行うこと。

- ① 東京駅ホーム下等に乗り継ぎ詰所を設置すること。
- ② 仙台駅ホーム乗務員乗継詰所に温水器を設置すること。

4. 今夏に多発した空調故障の原因と対策を明らかにするとともに、空調故障時のお客様対応を確実にすること。

5. 現行の荷物置場では収納しきれない状態が発生していることから、車両の新青森方にラゲッジスペースを増設すること。

6. 働き方改革の推進に向け、社員の仕事・生活環境を考慮した柔軟な通勤手段を認めること。また、帰宅時も含めて輸送障害時の代替手段を確保すること。

安全で働きやすく魅力ある職場をめざし、全組合員が注目し、議論を創り出そう!!!